

# 令和3年度 自己評価報告書

令和4年3月  
岐阜県立衛生専門学校

## 1 本校の教育理念

資料1

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

## 2 令和3年度組織（所属）目標及び目標項目、目標値と実績

### 1) 質の高い教育と教職員の育成

#### (1) カリキュラム評価

資料11～13、19～22

##### ①研究授業の実施、または他学科の取り組みへの参加

・研究授業は3学科が実施できたが、他学科の取り組みへの参加はできていない。

##### ②学科を超えた授業参観の実施

・1学科のみ実施できた。

##### ③授業評価の毎回実施

・全学科、科目ごとの評価が実施できた。

##### ④評価材料や評価時期の精選と見直し

・全学科、カリキュラム評価が定着し、評価材料、時期についても見直しを図ることができた。

#### (2) キャリアラダー

##### ①研修の受講

・職員全員が自己のキャリア目標到達を意識した研修計画（県の職員研修、自己研鑽のための研修）を立案し、多くの職員が受講できたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン研修が中心であった。

#### (3) 研究能力の向上

##### ①授業研究等の論文を一人1つ以上閲読し、学科内の授業に一つ以上反映する

・全学科共通として、授業研究等の論文を一人1つ以上閲読とはいかなかったが、教材研究や学科内で小グループワーキングを立ち上げ授業の実施、他施設と共同で研究への取り組みを開始した。

### 2) 業務改善の推進

資料5～6

#### (1) 業務の効率化

##### ①管理調整係、各学科での業務の見直し、効率化を1件以上

・各係、学科が業務の効率化に関する目標を1件以上立案し、取り組むことができた。

#### (2) 危機管理体制整備

##### ①防災訓練の計画立案と実践

・感染症拡大防止のため、防災訓練については、職員、学生共にシェイクアウト訓練を実施し、避難訓練は控えた。その他、災害時対応等、学生便覧に基づく学生への説明周知を実施した。

#### (3) ICT 運用

##### ①各学科、運用計画を立案し、計画に基づき（1回以上/月）実践

・各学科、運用計画を立案し、計画に基づき1回以上/月の利用実績が得られた。ただし、利用頻度については、学科により差がある。

3) 入学生の確保及び県内就業支援

資料9～10

(1) 入学者数

①令和4年度入学者数

(目標値：前年入学者数)

	目標	実績
助産学科	12名以上確保	→ 12名
第一看護学科	32名以上確保	→ 28名
第二看護学科	32名以上確保	→ 22名
歯科技工学科	12名以上確保	→ 12名
歯科衛生学科	21名以上確保	→ 20名
②高等学校訪問(6月)	令和元年度34校(前年中止)	→ 中止
③准看護師養成所訪問(6月)	令和元年度7校(前年中止)	→ 中止
④オープンキャンパス参加者(7月)	令和元年度411人(前年中止)	→ 中止
⑤歯科系学科学校説明会の開催 (オンライン型説明会)	令和元年度4回(前年3回)	→ 1回(8月実施) (7回(5～2月実施))
⑥進学ガイダンス(業者・高校開催)	令和元年度(前年10回)	→ 15回
⑦出身校への手紙・訪問(在学生)	全学科	→ 全学科の出身校(高校・准看護師養成所) 協力者の出身校 延べ16校
⑧入学生アンケートの実施	入学生全員(104名)に依頼	→ 103名に実施

(2) 県内就業支援

①県内施設への就業率

(目標値：過去5年間の平均値)

助産学科	84%以上	→ 100%
第一看護学科	95%以上	→ 87%
第二看護学科	79%以上	→ 92.8%
歯科技工学科	57%以上	→ 77%
歯科衛生学科	72%以上	→ 70.5%

②インターンシップの参加

中止

③卒業生と語る会の開催

中止

④卒業生交流会参加率

令和元年度20%(前年中止) → 中止

3 評価項目の達成及び取組状況

1) 学校経営

資料1～8

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。</li> <li>組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。</li> <li>学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。</li> <li>管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。</li> </ul>	4.5

○評価点：5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分

- ・中期目標(2019年～2021年)と2021年度の組織目標、目標値を策定し、メール配信、職員会議、学科会議で周知した。
- ・学校評価を8月と12月に実施し、学校のビジョンや組織目標など学校経営方針等は、職員に浸透していることが確認できた。また、中間評価結果について共有し、後期の学校運営に反映させた。ほか、学生による学校評価も併せて12月に実施した。
- ・学校関係者評価委員会については、第1回、第2回ともに書面会議となったが、予定通り第1回を9月に開催し、令和2年度学校評価結果を評価委員に報告し、意見をいただいた。委員からの意見を取りまとめ、第2回学校関係者評価委員会(11月書面会議)で報告し、今後の教育活動、学校運営に繋げるようにした。

①課題

- ・適切な学校運営の継続に向けて、中期目標の更新が必要である。

②改善方策

- ・令和4年度からの中期目標を策定する。

2) 学科運営

資料11～12

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。</li> <li>・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。</li> <li>・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。</li> <li>・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。</li> <li>・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。</li> <li>・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。</li> <li>・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。</li> <li>・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。</li> <li>・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。</li> <li>・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。</li> <li>・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。</li> <li>・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。</li> </ul>	<p>4. 2</p>

- ・業務改善については組織目標に挙げており、管理調整係、各学科で業務の効率化・見直しに関する目標を挙げて取り組み、進捗状況を職員会議で発表した。効率化を1件以上行うことができ、円滑な業務運営に繋げることができた。
- ・各学科、授業評価を実施し、その分析結果を次年度の教育課程に繋げることができた。
- ・全学科卒業年度の学生を対象に、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく学習内容や到達状況、方法等に関する各種アンケートを実施し、卒業時の学生の到達状況把握やカリキュラム評価に繋げることができた。
- ・今年度助産学科では、一部、学内実習への巻替えが急務となり、臨地実習と学内実習の繋ぎ方連携方法、使用教材に至る全てにおいて、模索しながらのスタートとなり、教材研究を進めながら実習に取り組んだ。なお、終了後には実習方法について、文献を用いたフィードバックを行った。
- ・第一看護学科では、カリキュラム改正で新たに構築した新規科目について授業研究を行い、科内教員全員が内容把握し、学科の目指すべき姿に向かって一貫性のある講義が行えるよう準備した。
- ・第二看護学科では、令和5年度のカリキュラム改正に向けて、小グループワーキングを中心に①カリキュラム評価、②教育目標の検討、③学習会企画・開催に取り組む、学科全体で足並みを揃える形で基礎固めに取り組んだ。
- ・歯科技工学科では、昨年度のカリキュラム評価から得られた課題への取り組みとして、科目の順序性や段階的な積み上げ学習について、外部講師も交えた課題共有を図り、意見交換したことで、多くの科目で改善が得られた。
- ・歯科衛生学科では、看護系学科の授業参観に加え、倫理観や価値観の知識強化に向けた科内勉強会を複数回開催するなど、教員のスキルアップに向けた取り組みを実施した。
- ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止によるソーシャルディスタンスを優先した演習や実習などを受け、教育課程の大幅な変更により、順序性や方法論の変更を余儀な

くされた。学生の各科目評価においては、昨年同様、例年を下回る状況は少なく、概ね学習目標の到達はできたと判断できるが、コミュニケーション能力を含めた技術到達には課題が残る。

①課題

- ・助産学科、第一看護学科は令和4年度より新カリキュラム運用開始となり、第二看護学科は令和5年度の施行が決定している。
- ・全学科、昨年度に引き続き、実習期間や実習方法に制約を受けたことで、コミュニケーションを始めとした技術教育の不足がある。

②改善方策

- ・助産学科、第一看護学科は、新カリキュラムの運用開始に伴う課題抽出や評価を行い、第二看護学科は、カリキュラム評価を基に新カリキュラム構築の計画を立案し進めていく。
- ・技術教育については、引き続き教育方法の工夫や教材の有効活用等を検討する。

3) 入学・卒業対策

資料9～10、13

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの応募者を確保することに努めているか。</li> <li>・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。</li> <li>・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。</li> <li>・卒業生への支援を行っているか。</li> <li>・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。</li> </ul>	4.2

- ・人材確保・就業対策部会において、年間計画を立案し活動を行った。結果、課題については、資料参照。
- ・入学生確保の結果については、組織目標の評価で述べたように、助産学科、歯科技工学科が目標値を上回ったが、第一看護学科、第二看護学科、歯科衛生学科は目標値を下回った。また、志願者数については、歯科系2学科の増減は2～3人と誤差の範疇と判断でき、主には、看護系学科での減少が著しい。
- ・昨年度に引き続き、2年連続で学校訪問をはじめ、進路説明会、オープンキャンパス等、殆どの事業が中止、若しくは縮小（オンラインへ変更）となり、その影響も一要因と考えられる。しかし、看護系学科の大幅減少については、看護基礎教育の場が専門学校のみではなく看護系大学の増加により、大学生活を送りながら学士と看護師資格の取得、綺麗な環境下で学校生活を送りたいという表れでもあると考える。
- ・優秀な学生確保のために、志願者数、入学者数の推移、入学者の状況、競合校の状況などの分析結果を踏まえ、今年度は特別入学試験の日程を3週間程度早めたが、志願者数は37%減少と効果は得られていない。学校訪問の中止などもあり、各学校への試験日程変更に関する周知不足も想定され、しばらくは前倒し日程で継続する。
- ・県内就業率は、助産学科、第二看護学科、歯科技工学科は目標値を上回ったが、第一看護学科、歯科衛生学科は目標値を下回った。ただし、第一看護学科は、目標値が95%と高値設定のため、今年度も8割強は県内就業であることから一定数確保はできたとと言える。歯科衛生学科も目標値には及ばないが、7割は県内就業となっている。県外を希望する学生の理由として、県内施設に比べて給料を始め、福利厚生などの就労環境が良い県外施設を選択していると思われる。
- ・卒業生交流会は今年度も中止となったが、これまで参加率が低いため、今後、案内や返信の方法などの検討が必要である。

①課題

- ・全学科において、志願者数の減少があり、特に看護系学科の減少が著しい。
- ・歯科系の入学者数の変動はないが定員を割っている。また、助産学科、第二看護学科においても大幅な定員割れが生じている。
- ・卒業生交流会の参加率が例年低い。また、卒業生近況把握のはがきの返信率が低い。

## ②改善策

- ・現在、人材確保・就業対策部会で行っている活動の見直し、確保に向けてはホームページ内に魅力発信できるコンテンツの掲載など、with コロナ時代にも対応できる対策の充実を検討する。
- ・人材確保では、広報活動の幅を広げ、第一看護学科、歯科技工学科、歯科衛生学科においては、現役生のみターゲットを絞るのではなく、幅広く各医療職を目指したい人への活動を検討する。
- ・学校の認知度アップに向けて、地域情報誌への掲載等、同窓会との連携を図りながら進める。
- ・特別入学試験日程の周知と結果に対する妥当性の分析を継続する。
- ・歯科系の県内就業率を上げるために、関係団体と連携を継続する。
- ・卒業生交流会の参加率を上げるために、案内、返信の方法などを検討する。

## 4) 学生生活への支援

資料14～18

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"><li>・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。</li><li>・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。</li><li>・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。</li><li>・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。</li></ul>	3.6

- ・各学科、学生支援体制をつくり、定期的に学生面談、学生指導等を行い、教員間で情報共有を行った。特に支援が必要な学生については、適宜、面談を実施し、必要時、スクールカウンセラーや保護者と連携を図りながら学生支援を行った。
- ・心身の不安定な学生には、適宜、面談を実施し、必要時こころの相談室、専門医の受診を勧めた。こころの相談室には、昨年と比較し、延べ28名（相談者10名）と延べ人数は6割増加が見られたが、相談者数に著しい増加はなく、同一学生による利用が多かった。今後も早めに声をかけ、学科全体で支援をしていく必要があるが、学生の中には、担任を通さずにカウンセリングを受けられる仕組みを要望する声もある。
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策としては、感染状況の把握、国、県の方針を確認し、学校としての方針を打ち出し、教室の拡充配置に伴う運用や体調不良者の早期対応、報告ルート等の徹底を図った。また、健康管理委員会を中心に手洗い、手指消毒の徹底、ドアノブ等の消毒、部屋の換気等感染予防対策を行うように学生、職員に徹底したことで、予防対策が実施できた。結果、職員・学生共に数名の罹患者が発生したが、他者への感染拡大には至らず対応できた。
- ・一昨年に実施したサークル活動に関する学生への意向調査では、6%が希望、93%が希望しないという結果がある。また、新型コロナウイルス感染症流行もあり、今年度も学生からの希望はない。

## ①課題

- ・スクールカウンセリングを希望するには、担任を介さないといけない。
- ・サークル活動を希望しない学生が多数存在している。

## ②改善方策

- ・スクールカウンセラーへの繋ぎ方について、検討する。
- ・サークル活動については、希望しない学生も多く活動できていない現状もあるが、新型コロナウイルス感染症流行による活動制限も強いているため、現時点で方向性を定めることは見送り保留とする。

## 5) 教職員の育成

資料 19 ~ 22

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。</li> <li>・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。</li> <li>・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。</li> <li>・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。</li> <li>・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。</li> </ul>	3.7

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン研修が中心であったが、概ね希望する研修を受講することができた。
- ・年度初めの業績目標立案時に、キャリア別到達目標を意識した目標を立案し、研修（県の職員研修、教育に関する研修）を計画した。多くはオンラインを利用したセミナー受講を通して、各自の目標達成に向けて取り組んだ。また、日々の自己のキャリア育成を意識するために、人事評価時（9月、1月）に自己評価、教務主任評価と教務主任面談、3月の校長面談（評価）は継続し実施することができた。
- ・今年度は新任を含め2名が専任教員養成講習会を受講し、1名が教務主任養成講習会の受講を無事に終えた。今後、学びの発揮を期待したい。
- ・新任、経験3年未満の支援対象者に対しては、例年同様トレーナーを中心に支援を行った。計画通り進まない場合は、適宜面談し、目標や業務内容の調整を行い支援した。
- ・今年度の目標値である研究授業の実施では、看護系3学科が取り組み、学科を超えた授業参観は、歯科衛生学科が実施できた。ほか、全学科で科目ごとの授業評価やカリキュラム評価が定着し、評価材料や評価時期についても見直しを図ることができた。また、教員の研究能力向上では、各学科授業研究等の論文を一人1つ以上閲読とはいかなかったが、助産学科は学内実習の対応が急務となり、教材研究に組み、終了後は学内実習の方法について、文献を用いたフィードバックを実施した。看護学科は学科内で小グループワーキングを立ち上げ、研究授業に取り組んだ。歯科系学科では、他施設職員との共同研究への取り組みを開始するなど、中期目標に掲げた3年前当初は、研修受講という受動的な取り組みに始まり、今年度は各学科自主的な活動へとステップアップしている。
- ・臨床能力維持については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を懸念し、今年度は実施しなかった。
- ・職員研修企画として、外部講師によるICT教材を活用した演習研修を実施し、教員にも好評であったが、タブレット端末の稼働台数が増えると繋がりが悪く、Wi-Fi環境に課題がある。

## ①課題

- ・学科を越えた授業参観、研究授業への取り組みに差がある。
- ・各学科内で取り組みのあった研究授業や教材研究の成果について、共有できていない。

## ②改善方策

- ・学科を越えた授業参観、研究授業の実施について、計画的に進める。
- ・研究授業や教材研究での成果をまとめて発表する機会をつくる。

## 6) 管理運営・財政

資料 14、23

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。</li> <li>・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。</li> <li>・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。</li> <li>・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。</li> </ul>	4.0

- ・危機管理対策としては、学生便覧を用いて緊急時対応のガイダンスを実施し、4月に全校学生を対象にした防災訓練については、感染予防の観点からシェイクアウト訓練に切り替え実施した。ほか、日常的にOCNメールを利用して連絡事項等を配信したことで、緊急時のメール受信訓練にも繋がった。
- ・予算執行に関する仕組みについて職員研修を開催し、職員の理解を深めることで、予算計画を逸脱した要求が改善された。
- ・学生の意見、要望（新生と語る会、学生生活実態調査等）を受け、全体に共通する教材備品等の作動確認、破損・不要備品の整備や処分は速やかに対応し、時間割配布の時期、学科内での検討事項については教務主任に説明し、できることから対応している。
- ・ハラスメント防止について、第二看護学科では学生から教員の言動についての意見を受け、各自が意識を高めると共にハラスメントを防ぐ環境づくりとして、要指導学生の個別指導は2名の教員で関わり、学生が訴えることができる環境づくりに取り組んだ。

#### ①課題

- ・火災や地震を想定した避難訓練が2年間実施できていないため、職員、学生共に災害時対応が不安視される。
- ・災害時の備蓄品の整備ができていない。

#### ②改善方策

- ・感染状況に合わせた取り組みとなるが、なるべく実際の授業、実習を想定した防災訓練ができるよう、計画を検討する。
- ・災害時の簡易トイレ、職員および学生の食料飲料3日分の備蓄を整備する。また、防災ヘルメットの設置（外来者・非常勤講師用）をする。

### 7) 施設設備

#### 資料 2 3

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。</li> <li>・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。</li> <li>・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。</li> <li>・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。</li> <li>・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。</li> </ul>	3.5

- ・例年、学校関係者評価、学生からも「備品が古い」「時代に沿った教材を使用してほしい」と意見があり、必要な備品（古くて現場との違いが大きいの、耐用年数など）の購入、更新を進めている。令和2年度には3～5か年計画を作成し、今年度は、オアシスルームの冷蔵庫1台を更新し、看護系に受胎調整モデル2台、ノートパソコン1台、電動ベッド3台、ストレッチャー1台、歯科技工学科にサンドブラスター1台、バキュームアダプタ1台、デジタルマイクロスコープ2台、歯科衛生学科に歯髓診断器2台、寒天コンディショナー1台を更新した。ほか、歯科技工学科に3Dプリンター1台、ウルトラワクサー1台、歯科衛生学科に小型高圧蒸気滅菌器1台を新規購入した。さらに、消耗品として、歯科系にオフィスチェア20脚、電動歯ブラシ10本を新規購入した。
- ・司書配置により図書室の紛失本は4冊と大幅に減少し、図書の貸出数についても、前年比で2割強の増加が見られた。
- ・生活環境改善に向けて、県からの照会事業も有効活用しながら消耗備品等の整備に取り組んでいるが、学生からは、冷暖房の利用制限があり快適に授業を受講することができないとの意見が多く寄せられている。
- ・ICT教育推進により、出校停止の学生に対する遠隔授業や職員の研修受講等、日常的に利用す

ることができた。

- ・学生から個人パソコンの持ち込み等、利便性向上への要望があり、現時点でパソコン持ち込みは許可できず、まだまだ課題山積だが、個々への Microsoft アカウントの貸与により、新たに何ができるのか ICT 委員会を中心に検証を繰り返し、利用拡大を図っている。

#### ①課題

- ・施設設備および教材備品等の老朽化や不足がある。
- ・図書館の貸出数は少しずつ増加しているが、利便性が悪い。
- ・ICT 整備が進む中、利用拡充が必要である。

#### ②改善方策

- ・今後も 5 ヶ年計画に基づき、部屋の改修や備品の更新ができるよう予算翌要求する。
- ・図書室については、利便性向上に向けて、図書の検索システムが導入できるように、設置の要求をしていく。
- ・ICT 機器の利用拡充に向けて、委員会を中心にした課題集約と解決に向けた対応継続と、学習会の計画等を検討する。また、Wi-Fi 環境安定に向けては、県と連携して改善に努める。

### 8) 社会貢献、地域活動

評価項目	評価点
・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	3.5

- ・医療機関等でのボランティア活動依頼があれば学生に参加を呼びかけているが、例年、参加は少なく課題となっている。また、新型コロナウイルス感染症流行中は依頼もなく学校の方針としても行動自粛を強いたため、学生、教員共に活動はしていない。
- ・地域住民と直接的な関わりは少ないが、実習施設の新規開拓では、近隣施設の活用など地域に根づいた学校づくりを意識して取り組んでいる。
- ・学校、職業を周知するために、歯科系学科は近隣小学校と連携し、出前授業を実施した。また看護系では第一看護学科が業者の進路ガイダンスを活用して、高校で模擬授業を実施し、助産学科は小学校で2月に「命の授業」を行った。

#### ①課題

- ・広報活動が充実できていない。
- ・地域への周知、地域活動を推進するための活動ができていない。
- ・ボランティア活動への参加が少ない。

#### ②改善方策

- ・学校の認知度アップに向けては、新たな取り組みとして、3) の入学生確保に記載した地域情報誌への掲載を予定する。
- ・本校の魅力を伝えるポスター、ホームページの見直しをする。
- ・新型コロナウイルス感染症の動向を確認しながら、適宜、ボランティア募集の案内を提供する。また、教員も一緒に参加できるようにする。
- ・近隣小中学校との連携を継続して行う。

### 4 組織目標や計画の総合的な評価結果

本年度に定めた組織目標や学校運営計画については、入学生の確保の実績が目標を下回ったが、それ以外は、本報告書に記載したとおりすべての項目の評価点が 3.5 以上であり、概ね目標達成できていると評価する。